

糖尿病の薬物療法

血糖値は薬物でコントロールし、正常にすることもできます。



食事・運動療法を二〜三カ月間行っても良好な血糖コントロールが得られない場合、薬物療法を開始します。最近では、比較的軽症の段階から薬を使うケースが増えてきました。それは、糖尿病の進行と合併症を防ぐには、より早期の段階から、より良好な血糖コントロールを行う必要があるからです。

一口に糖尿病といっても病態は様々です。その病態に合うように、一種類、あるいは何種類かの薬を使って血糖をコントロールします。

糖尿病の治療に使われる主な薬は、インスリン注射薬と飲み薬に大別されます。前者は皮下

注射することによって不足しているインスリンを補います。ここでは後者について解説します。

糖尿病治療の飲み薬

飲み薬には、膵臓からインスリンを出させ、体内のインスリン量を増やすことによって血糖値を下げるものと、体内にあるインスリンをうまく利用させることによって血糖値を下げるものがあります。

「インスリンを出して血糖値を下げる薬」

- 速効型インスリン分泌促進薬
- スルホニルウレア（SU）薬

どちらも膵臓に直接作用してインスリンを出す薬です。SU薬は速効性はありませんが長時

間作用します。逆に速効型インスリン分泌促進薬は飲んですぐインスリンが出ますが、作用時間が短いいため、食事の直前に飲まなければなりません。

これらの薬剤は特に低血糖を起す可能性があるため、服薬時の注意を必ず守りましょう。

●DPP-4阻害薬

膵臓からのインスリン分泌を促進させて、血糖値を下げます。インスリンの分泌量を増やすインクレチンは、食事に含まれるブドウ糖の量に応じて小腸から分泌されますが、その多くは膵臓に届く前に、DPP-4という酵素によって分解されます。DPP-4阻害薬はこの酵素の働きを抑え、インクレチンの量を増加させることによってインスリンの量を増やします。

他の糖尿病の薬と一緒に服用した場合、低血糖を起こすことがあります。

「インスリンを出さずに血糖値を下げる薬」

●α-グルコシダーゼ阻害薬

糖尿病は、食後の急激な血糖値の上昇に合わせて、分泌されるはずのインスリンが分泌されない、また分泌されても量が少ないために、糖をうまく体内に取りこむことができないために起きます。

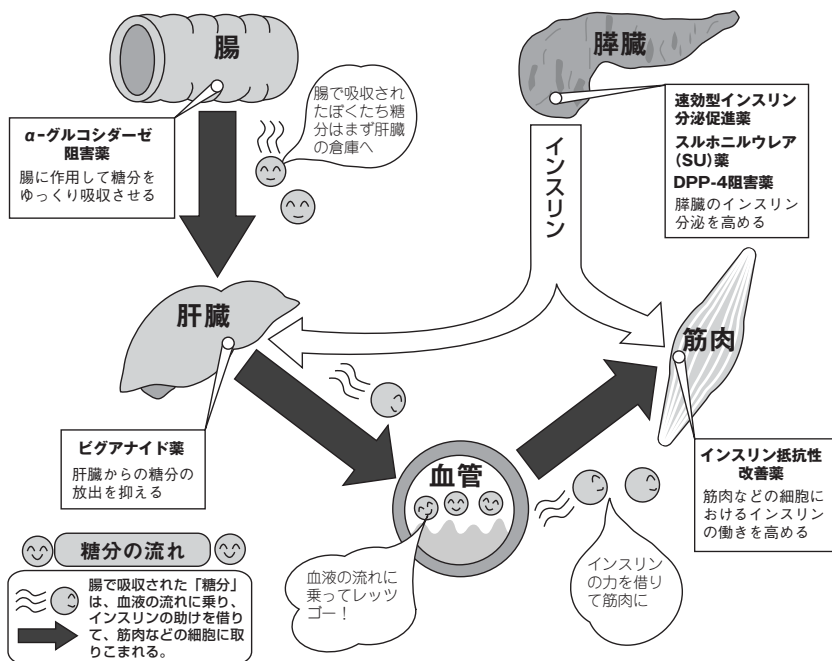
α-グルコシダーゼ阻害薬は、ゆっくり食べる時と同じような働きをする薬剤で、食物中に含まれるブドウ糖以外の糖分をゆっくり吸収させるため、食後の急激な血糖値を抑えることができます。

ただし、この薬は食事の直前に飲まない効果がありません。また、お腹が張ったり、おならが増えたりすることがあります。

●インスリン抵抗性改善薬

インスリンが出ているにもかかわらず、筋肉などの細胞がイ

■糖尿病治療薬の役割



■低血糖の症状

●自律神経症状



発汗



手足のふるえ



体が熱い



動悸



不安感



吐き気



空腹感



周囲がかすんで見える

●中枢神経症状



集中力低下



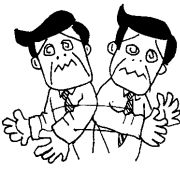
取り乱す



脱力感



眠気



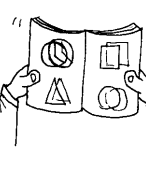
めまい



疲労感



ろれつが回らない



物が二重に見える

●意識障害



意識がなくなる

●低血糖昏睡



昏睡状態

ンスリンに反応しにくくなり、細胞にうまくブドウ糖が取りこまれない状態を「インスリン抵抗性」といいます。インスリン細胞に働きかけ、インスリンの作用を高めて血糖値を下げる薬剤です。時々、むくみや体重増加などの症状がみられることもあり、これらは、特に心臓の病気がある人に注意が必要です。

◎ビグアナイド薬

体内に入ったブドウ糖は、一度、肝臓に貯蔵され、再度血中に放出されることで一定した血糖値が保たれています。ビグアナイド薬は、必要以上に肝臓からブドウ糖を血中に放出するのを抑える薬剤です。

胃のもたれや軟便が現れることがあります。また、下痢をしている時や発熱時にはこの薬を飲むのをひかえましょう。

■薬は正しく飲みましょう

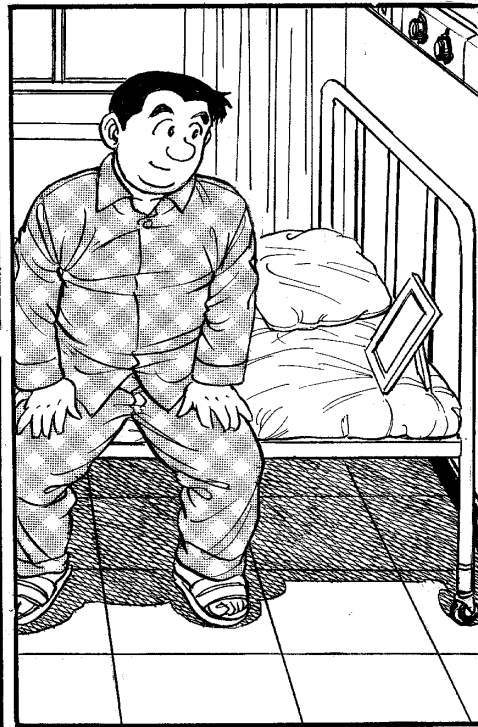
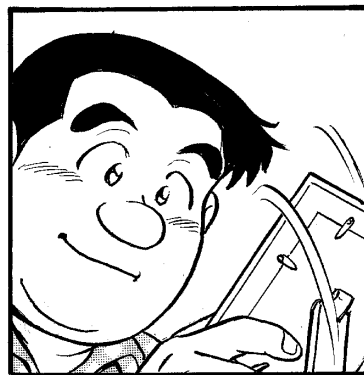
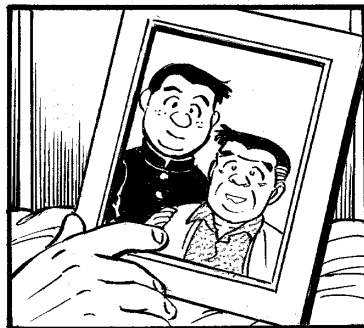
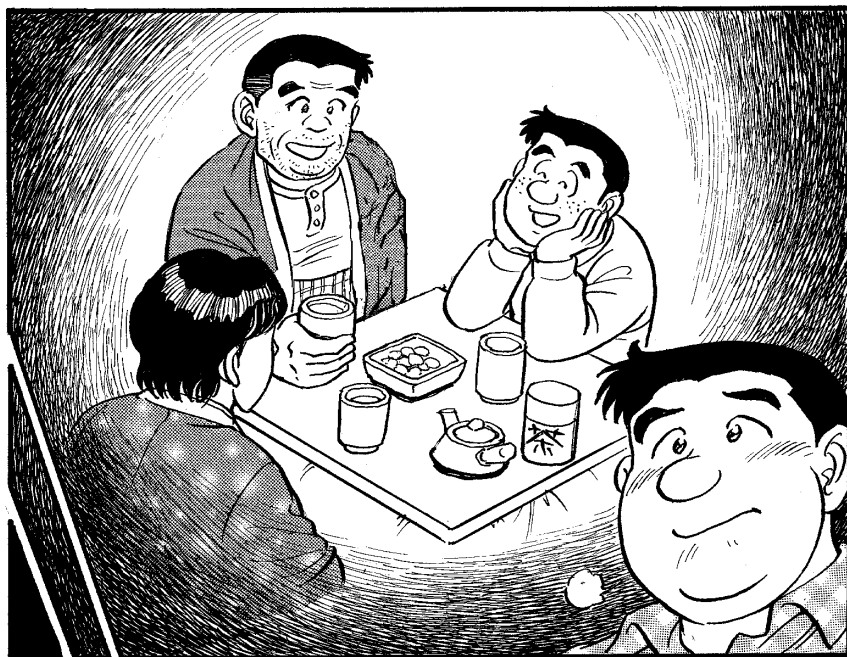
糖尿病の薬はどれも血糖値を下げる働きがあるため、正しく飲まないで低血糖が起これり危険な状態になる場合があります。特に、SU薬などインスリンを出すことによっては血糖値を下げる薬を飲む場合は、十分な注意が必要となります。

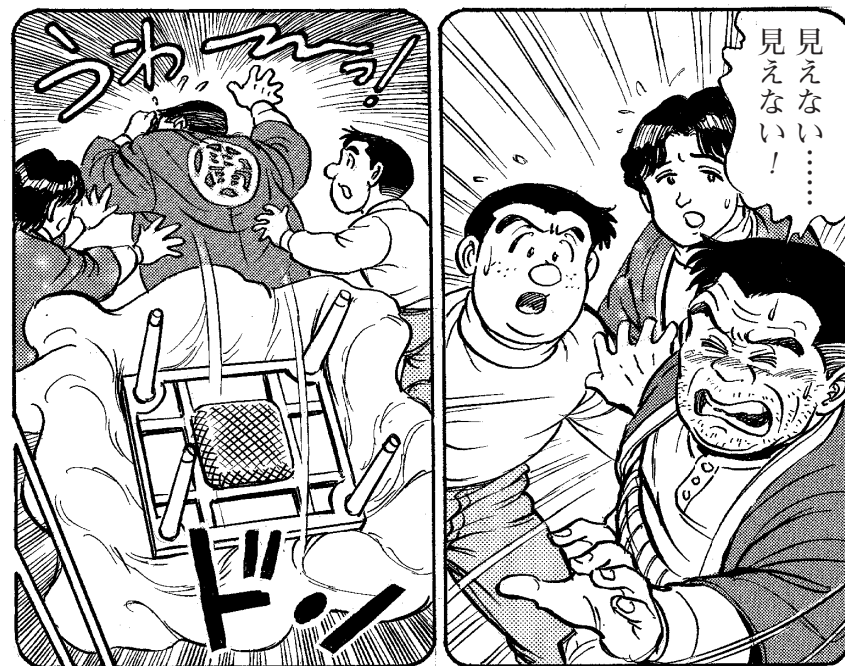
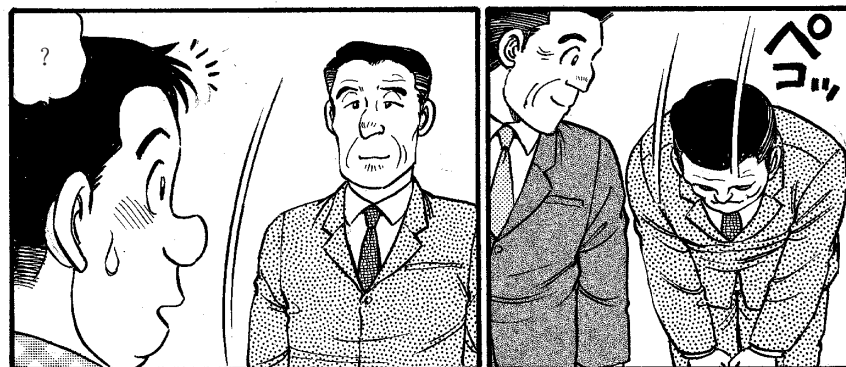
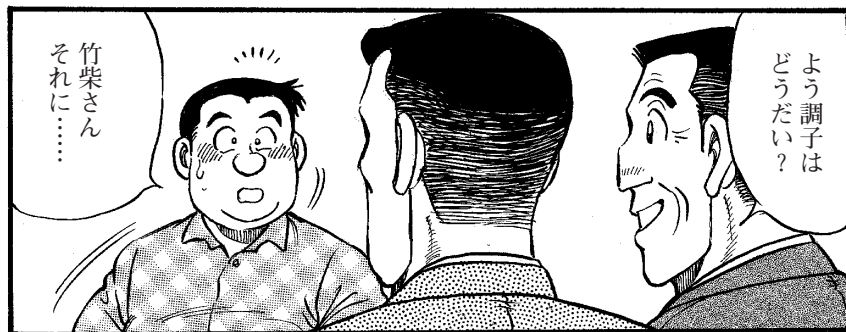
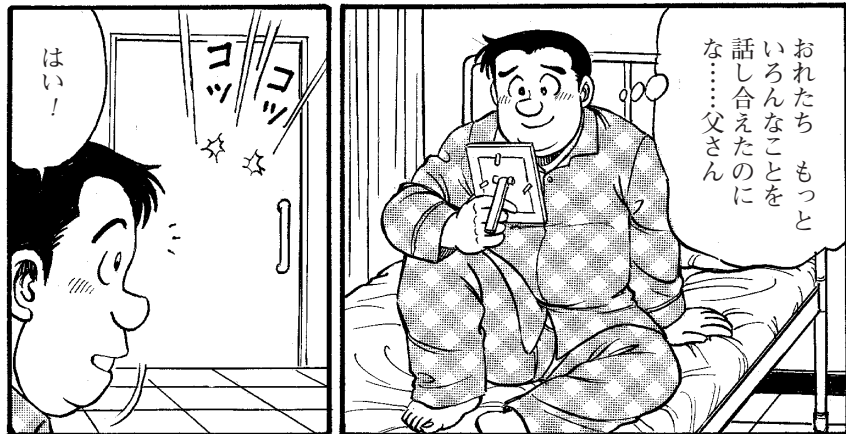
食事をせずに薬だけ飲んだ、食事の量が多めだったのでもより多く薬を飲んだ場合など、薬の飲み方を守らなかった時や、何らかの理由で薬が効き過ぎてしまった場合には、血糖値が低くなり過ぎて、空腹感や脱力感、手足のふるえ、冷や汗、動悸など低血糖の症状が現れます。ひどくなると、痙攣を起こしたり意識を失う時もあります。低血糖の症状に気がいたら、がまんしないでブドウ糖や砂糖、あるいは糖分の入った清涼飲料水を飲みましょう。

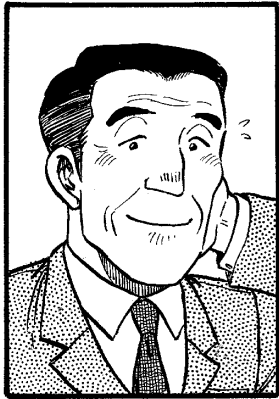
低血糖にはブドウ糖が一番効果的です。特にαグルコシダーゼ阻害薬を飲んでいる場合は、砂糖に含まれる糖分ではなかなか吸収されないため、必ずブドウ糖を飲んでください。

また、体調が悪い時や病気の時も低血糖を起こしやすいので、薬を飲んだほうがよいか医師に相談しましょう。風邪薬や高血圧症、脂質異常症の薬には、糖尿病の薬の効き目を高めてしまう薬剤もあるので、薬局で薬を買う時や別の病院にかかる時は、糖尿病の薬を飲んでいることを必ず伝えましょう。

最後に、「くすり」を逆から読むと「リスク」となるように、本来の血糖値を下げる以外にも何らかの影響を体に及ぼすことがあります。定期的な検査を受けたり、不快な症状や気になる症状がある場合には、遠慮なく医師と相談することが大切です。







まあ聞いてくれ
どうしたらいいかと
考えている時に
思い出したのが
この小原君なんだ

自分にはまだ
わかりませんが

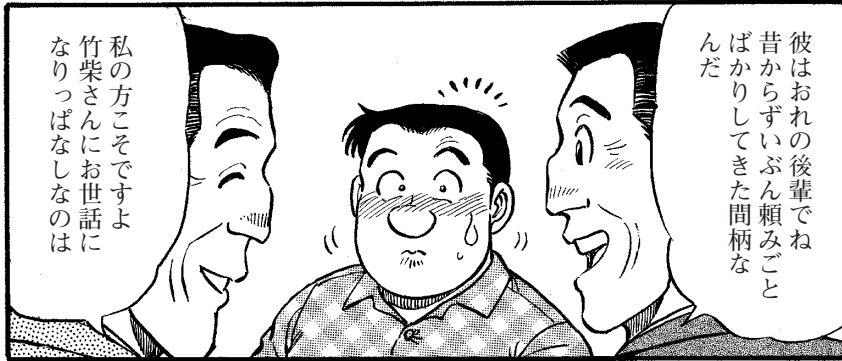


これは受け取るわけ
にはいかないんだ

しかし……



今日は見舞いという
こともあるんだが
まずこれを返そうと
思ってる……

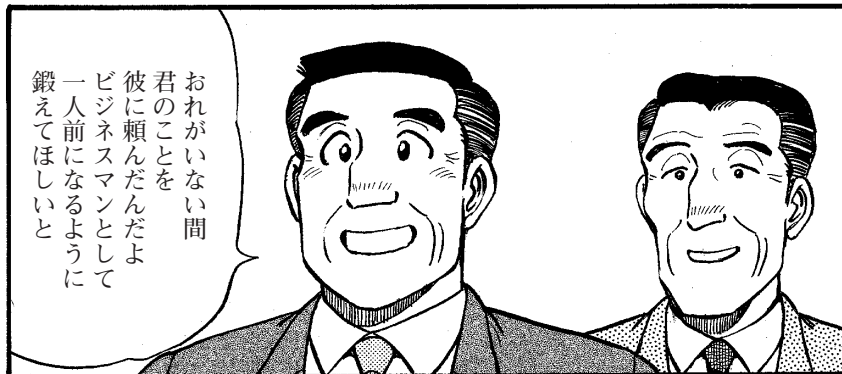
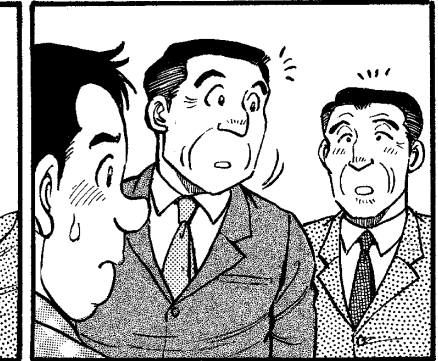


彼はおれの後輩でね
昔からずいぶん頼みごと
ばかりしてきた間柄な
んだ

私の方こそですよ
竹柴さんにお世話に
なりっぱなしなのは



悪かった！
すべてはおれに
責任があるんだ



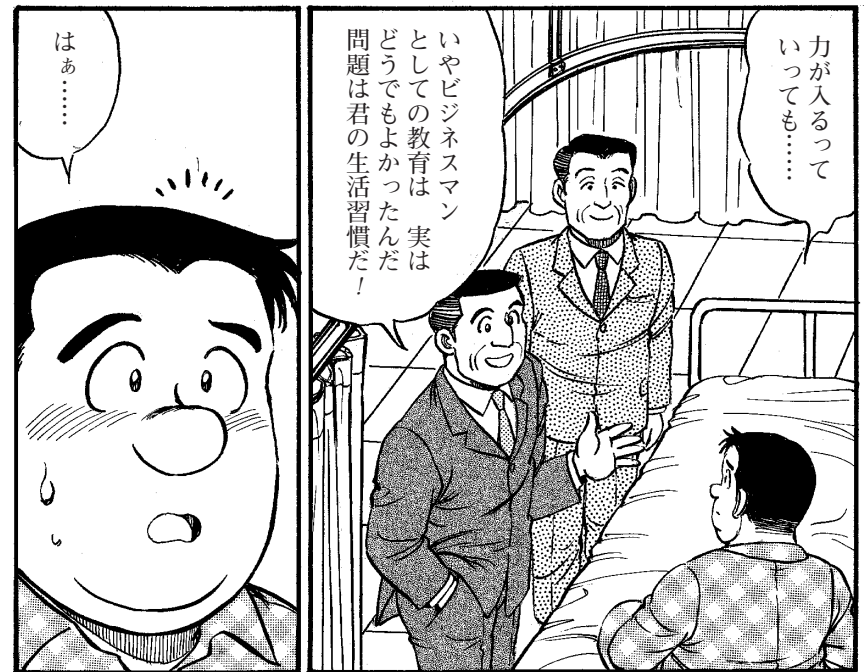
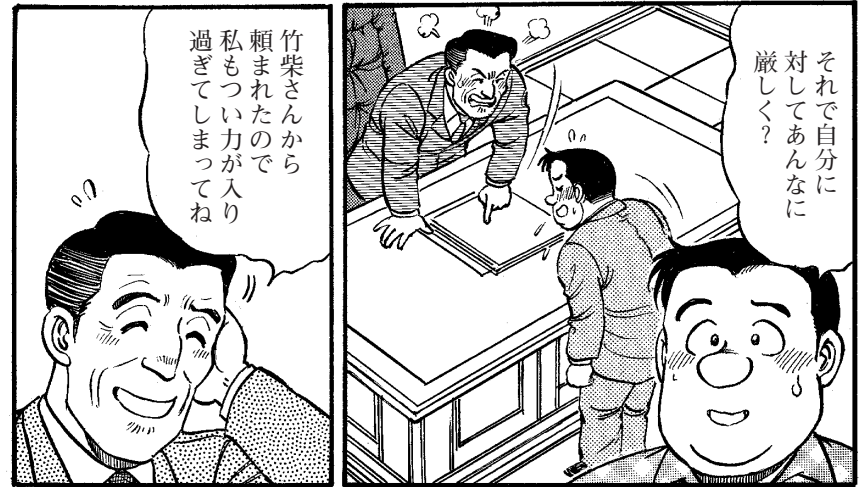
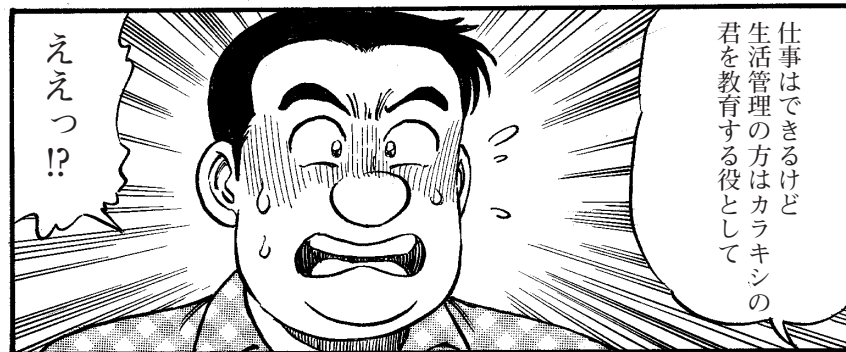
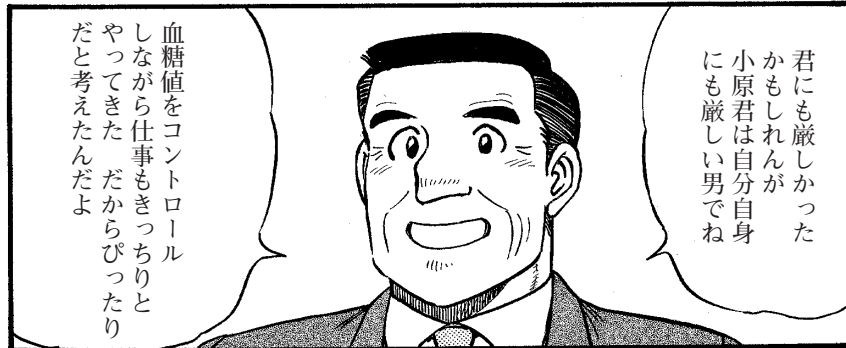
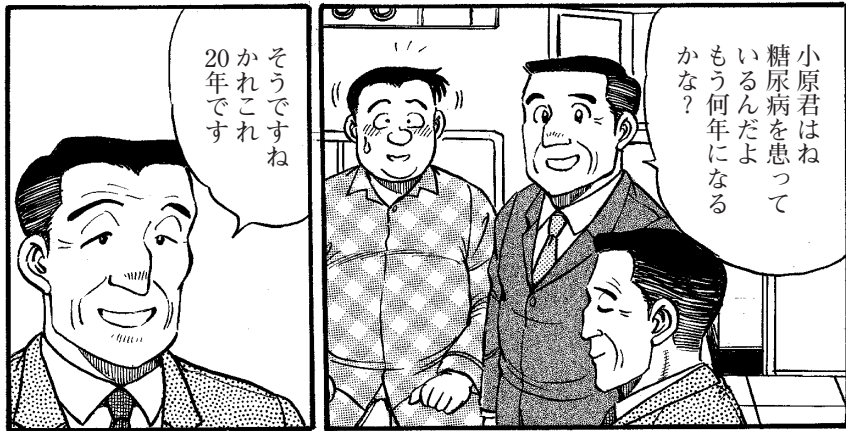
おれがいない間
君のことを
彼に頼んだんだよ
ビジネススマンとして
一人前になるように
鍛えてほしいと

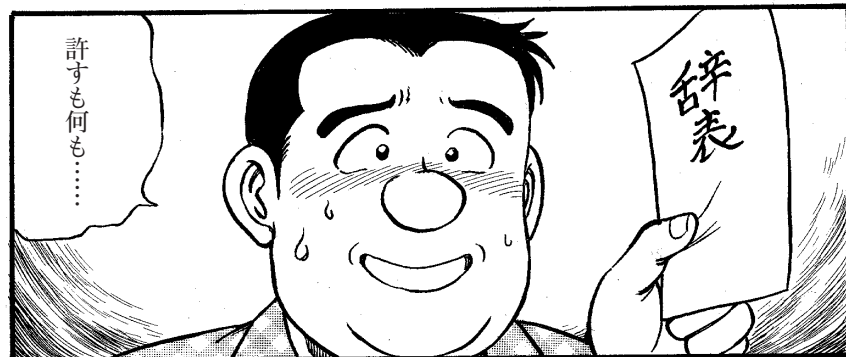
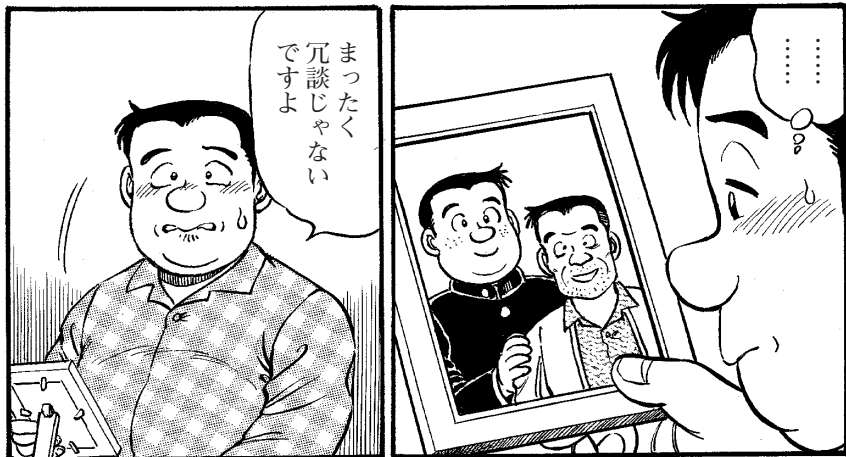


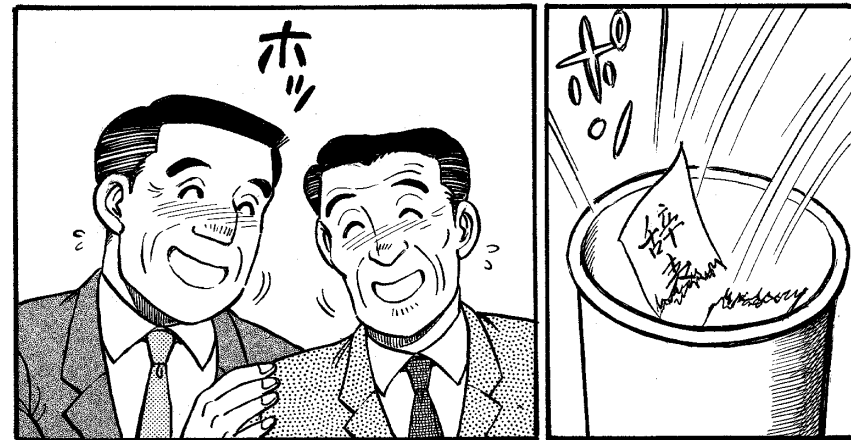
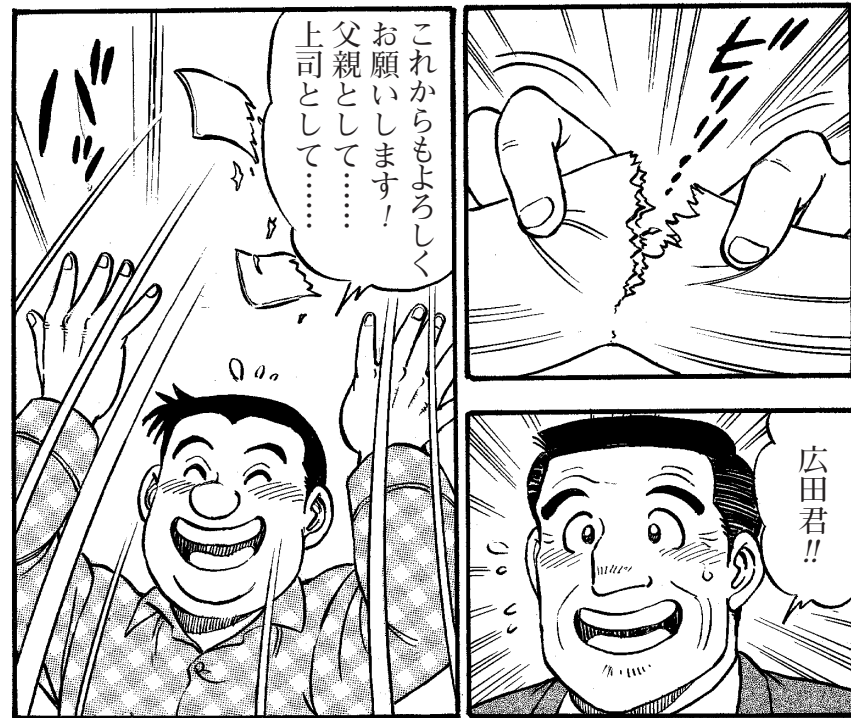
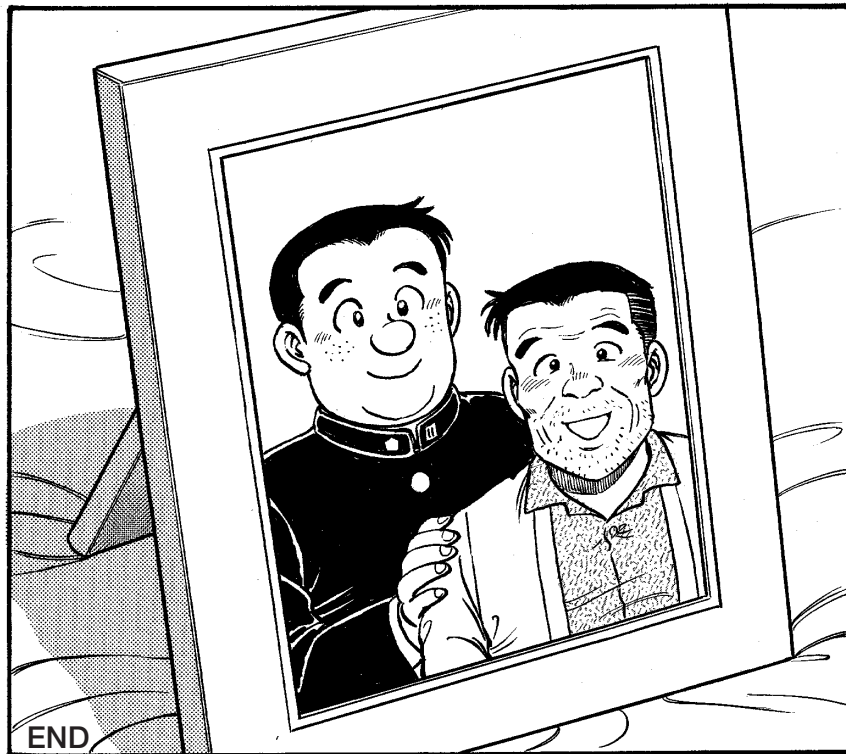
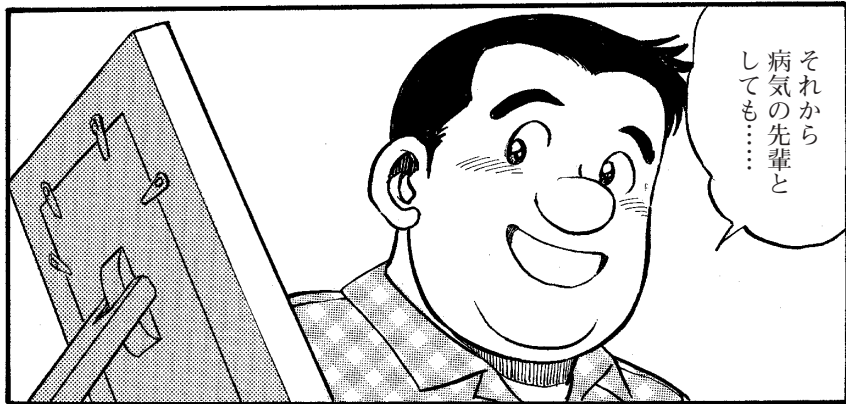
パリに行く前からの
ことだったがおれは無茶
ばかりしている君の体の
ことが気にかかってね

それに娘の久美と
一緒になったこともあるし
お節介とは思ったんだが
放つてはおけなかったんだ

どういふこと
です？







- 監修……………加来浩平 [川崎医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科学 教授]
- まんが……………ひきのプロ
 - ひきの真二
 - 松尾たかよし
 - 石川 勉
- シナリオ……………タナカ學
- 表紙デザイン……………オフィス・ハル
- コラムカット……………北楯修子
- 編集制作……………(株) 桂樹社グループ

マンガでわかる生活習慣病
糖尿病をやっつけろ！

発行……………2011年1月

企画……………武田薬品工業株式会社

〒540-8645 大阪市中央区道修町四丁目1番1号
